

## 会議録（会議結果概要）

名称	令和5年度第2回しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会
開催日時	令和6年2月2日（金） 13:30～15:00
開催場所	各務原市役所 本庁舎 4階会議室 4-3・4-4
出席者	富樫幸一会長、阿部雄介委員、各務英雄委員、五島伸治委員、近藤亜矢子委員、鶴飼明男委員、別宮理恵委員、今道雄介委員、玉置暖委員、松原正隆委員 ※欠席者：林ゆり委員、古田宏司委員、戸高翼委員
議題及び 審議・協 議結果等 の概要	<p>次第</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 議事               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第2期しあわせ実感かかみがはら総合戦略（改定案）のパブリックコメントの実施結果について（報告）</li> <li>(2) 各務原市の人口について（意見交換）</li> </ol> </li> <li>3 その他</li> <li>4 閉会</li> </ol>
	<p>1 開会 事務局より説明</p> <p>《自己紹介》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回からの出席委員の自己紹介</li> </ul> <p>《事務局より説明》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の会議で提案のあった会議のライブ配信については、本会が忌憚のない意見交換の場であることを考慮し、実施しないこととする。</li> </ul> <p>2. 議事</p> <p>(1) 第2期しあわせ実感かかみがはら総合戦略（改定案）のパブリックコメントの実施結果について（報告）</p> <p>《事務局より説明》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメントを1月11日から1月31日までの期間、資料の内容にて実施したが、提出された意見は0件であった。</li> <li>・改定案は、今後、市長を本部長とする「しあわせ実感かかみがはら創生推進本部」にて決定したいと考えている。</li> </ul> <p>《質疑意見》</p> <p><b>【会長】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各務原市では他のパブリックコメント実施の結果はどうか。</li> </ul>

**【事務局】**

- ・内容や事業の関心度の高さに応じて異なる。新総合体育館の整備に関するものに関しては3桁、総合計画の基本構想（案）は6人の方からご意見をいただいた。

(2) 各務原市の人口について（意見交換）

《事務局より説明》

《意見交換》

**【会長】**

- ・ご質問等はいかがが。

**【委員】**

- ・マッチングアプリについて、浅野市長と美濃加茂市の藤井市長に出演していただき12月に放送したが、視聴率は各務原市の方が高かった。
- ・年代によりマッチングアプリに対する捉え方は違うと思うが、愛知県等に出ない結婚を推奨するお話をしていただいた。

**【委員】**

- ・私の周りでは、女性のほうがマッチングアプリを使っている比率は高いように感じる。男性のほうが、あまり使っていないイメージがある。

**【委員】**

- ・地方に勉強会等で行くことがあるが、人口減少の話題となると、マクロ的に考えれば、IターンやUターン等で人口が増えるという話になるが、ミクロ的に親の立場で考えると、自分の子が活躍できるなら、東京、海外だろうが好きな地へ適性に応じて行ってほしいと思う。目指すところは、より魅力的な各務原市にして、いろいろな人に各務原市が良いと言ってもらえるようなまちにすることだと思う。
- ・子育て施策の「子ども・子育て関連事業」は、各務原市も頑張っている。国の、3人以上子どもがいる家庭は大学の学費が無料という政策があるが、子どもが扶養から外れることで恩恵を受けられないこともある。年齢の幅を狭めて生むことは難しいので、もう1人産む動機になる事業のほうが個人的には良いと思う。
- ・昔は良妻賢母を目指すという価値観だったと思うが、最近では土日は父親が子どもの面倒を見ることも増えてきている。母親の負担が減って、もう1人産んでも大変ではないと思うことも重要になってきたのかと思う。
- ・行政に求めるのは、親の育児力の向上である。うまく育てられることにより子育てが楽しくなり、2人目、3人目と発展していくと良いと思う。

**【会長】**

- ・団塊世代の70代は、夫は勤めに出て、妻が専業主婦で子育てをしていた。団

塊ジュニアは各務原市も含め岐阜県からいなくなるが、地方創生で議論になったのは、出ていくのが男性から女性に変わった点である。

- ・愛知県は大学進学や就職も県内でかなり完結する。家を買うときに、今までは可児市、多治見市、各務原市まで来ていたのが、名古屋市内や日進市、長久手市くらいで止まってしまい、本市の人口の動向に影響してきている。岐阜県の人は、基本的に進学、就職は県外で、6割ぐらいは愛知県に行っている。

**【委員】**

- ・日本全体の人口が減り続けている現状で、何か新しい産業ができるなど、大きな出来事がない限り、人口減少は止められるものではない。人口は減っていくものだという考えのもとで政策を検討していく必要があると思う。
- ・そのような中でも人口が増えている市・町は日本にはあると思うので、そういった自治体の事例を参考にしながら各務原市の強みや特徴を生かした施策に取り組んでほしい。

**【会長】**

- ・この周辺では、名古屋市内の中心部のマンション群と、周辺の日進市、長久手市辺り、岐阜県側でも北方町や岐南町の人口は増えている。岐阜市内に限定しても、郊外団地や山のほうは減っているが、県庁のある市橋、南鶉では増えて小学校の教室が不足しているアンバランスな状態となっている。
- ・同じようなことがおそらく各務原市でも言えて、高齢化が進んでいる団地群がある一方で、名鉄の沿線ではマンションやアパートが建っており、川島地区でも増えている。

**【委員】**

- ・資料2の18ページに良いデータがあると思う。岐阜市へのアクセスが良い那加の東は、数十年前までは市街化調整区域でその後市街化区域に変わった。変わった直後にアパートや建売の一戸建てが出てきた。
- ・川島も同様で、一宮市に隣接し、昔は機屋はたやさんが多く高齢者が多いイメージがあったが、土地と建物の価格が一宮市辺りよりも安いので、若者が増えてきている話を聞いたことがある。
- ・尾崎、八木山、緑苑は、団塊の世代が家を買ったが、今では親世代は年老いて残っており、子どもたちはさらに利便性のよい名古屋市のマンションなどに住んでいる。今では高齢者ばかりになっており、市民運動会ができないという話も聞いている。
- ・兵庫県明石市の出生率は高いため各務原市と比較するとよい。費用はかかるかと思うが、市町村で独自色を出さないと出生率を上げることはなかなかできず、市町村間での人口の取り合いになる。
- ・人手不足で働き手がないので、良い施策や支援をしてほしい。働き手を外国人ばかりに頼っていてよいのかと思う。

**【委員】**

- ・春闘の時期で働き方改革などが話題になっている。コロナの時期に外に出られなかったことから、Z o o mなどの使用が増えている。この辺りでは少ないが、田舎で過ごししながら、月に1回か2回だけ東京等の都会で働き、あとはZ o o mで働くという方法もできている。
- ・市でもネット会議を実施されていると思う。この周辺でも、子どもを育てながら都会の仕事をするとも増えてきてはいるが、ものづくり産業が活発な各務原市は、現場にいて働かなくてはいけないことも多いようなので、違う切り口を現在模索しているところである。

#### 【委員】

- ・6ページの「年齢3区分別人口の推移」は、働き盛りの世代が減って、一方で高齢者が増えているというグラフだと思うが、65歳以上の方のイメージは昔と今では全く異なっており、今の65歳以上の方は皆様まだまだ元気である。健康寿命を延ばすために、市としてもフレイル予防に力を入れていこうと思っているので、あまり悲観的に見るべきではないのかもしれない。
- ・一方、ネガティブな要素として、コミュニティの担い手や企業の働き手不足が問題になっている。前回の懇話会では、これは気持ちの問題だと申し上げたが、そういう意味では、働き盛りの世代の地域貢献に対するモチベーションが弱くなってしまっているという見方もできる。行政としては、自治会のDX化、消防団員の負担軽減に取り組んでおり、今後さらに進めていきたい。
- ・先ほどの意見でもあったが、人口が減ることを前提としたまちづくりを考える必要があるというのはその通りだと思っている。これまでは「拡充」といわれていたのが、最近は「縮充」というコンパクトに必要な箇所に重点的に取り組んでいくという考え方が必要となってきている。小中学校の再編というネガティブに聞こえてしまうような問題も、先送りせず真剣に捉えていかなければならない。

#### 【会長】

- ・市街化区域を拡大して区画整理事業をすればそこは人口が増えるが、行政の効率性についても考えなければいけない。そのバランスが課題となる。
- ・川島がまだ人口が増えているのは、土地が安く、車があれば生活できる。川島の座談会では、かつては織物とか撚糸のまちなので自分の家で働く人が多く、子どもも2人、3人と多かった。これは、地元の話の話を聞くと、結婚して子どもを産んで家族や地域で育てるといった雰囲気があったためのものである。
- ・イオンの南側の大野町は市街化調整区域で地元の人の家が建ち、次の世代が戻ってきて、同居しなくともその子どもが住んでいる。10年、20年先、住み続けられるまちづくりを、すでに同じ市内で行なっているところもある。各務原市全体、各地域で、皆さんの周りではいかがか。

#### 【委員】

- ・鶴沼の古市場町は、土地が安く、新しい家が多く建っており、世帯数が増えていっている。裏を返すと、古市場町の人口が増えているということは、子ども

が多く生まれて増えているわけではなく、どこかの人口が減っているだけなので、行政として、どこに地域として集中させるか、どのような方針でまちづくりをしていくのが大事であると思う。

**【委員】**

- ・総務省の平成21年度の推計では、65から70歳までの半分が働いている数値が出ていたと思うので、生産労働人口の減少には対応ができるが、コミュニティづくりは負担を軽減しないと働いている人にはなかなかできない。
- ・コンパクトシティ化の観点で、従来の市街地を中心に考えているのは人口も増えにくいと思うので、駅中心のコンパクト化を進めれば、交通も便利であることから人口対策にもなるのではないかと。那加、蘇原、鶴沼それぞれの地区の駅の近くに大きなショッピングセンターがあるため、それを活かしたらどうか。

**【会長】**

- ・富山では串とお団子という、公共交通を軸としたコンパクトシティづくりに取り組んでいる。

**【委員】**

- ・国勢調査の人口はどのようになっているか。

**【会長】**

- ・住民基本台帳のデータで今回の資料は作成されているが、国勢調査は10月1日にその地にいる人の数なので、実態とはずれ、特に20代前後ではずれは大きい。
- ・ただ、学生は住民票を移さない。理由としては、自動車の免許の関係と、成人式までは実家に置きたいので、就職するときに移すという人が多いためだと思う。各務原市も昔、岐阜大学農・工学部があったが、周辺からの学生が多かったため数字的には大きくは違わなかった。

**【委員】**

- ・参考になりそうなケースとして、友人に、妻と子どもたちだけが長野県阿智村に移住し、夫は土日だけ村に行くという生活をしている人がいる。村が若い移住者受け入れに積極的で、新築の一戸建て庭付きが月2万円弱、小学校へはバスの送迎があり、子どもに体験をさせるイベントや自然の中で成長していくプログラムが充実しており、子どもがのびのび成長するための環境が整えられていることが移住の理由である。この例は山の中だからできることだとは思いますが、各務原市にも何かそれ目当てで来る場所ができれば、移住のきっかけとなるのではないかと。

**【会長】**

- ・阿智村の移住者対策はすごく、家のことや仕事のことに補助金を出している。その南にある下條村も同じようである。川島に移住した人の話では自然や景色が移住の理由のようである。

**【委員】**

- ・他県からの移住者や転勤で来た人からは、各務原市はほどほど田舎で都会なの

で居心地が良いと聞く。

- ・生徒や学生が職業体験をすると、体験した仕事が合っておりそのまま就職して住み着くことがあるようである。各務原市には学校も大学までであるのでそのような仕組みをつくるのもいいのではないかと思う。

**【会長】**

- ・「かがみがはら暮らし委員会」の参加者、や11月3日の「マーケット日和」のイベントには若い人が多い。先ほどの自治会の話は少し難しいかもしれないが、別のコミュニティが生まれてきている印象はある。

**【委員】**

- ・職業体験の話に関連して、浅野市長が就任してから始めた「寺子屋事業」で小学生のときに職場体験をした子どもがその企業に就職するという嬉しい話があった。11年前に蒔いた種が芽吹きつつあり、今後このようなケースは増えてくると考えられ、市の事業も成果が出始めている。

**【会長】**

- ・前回の懇話会でも、企業として、若い人たちにもものづくりを経験させることができないかという話が出ていた。

**【委員】**

- ・小学生をターゲットに地元をよく知ってもらうのが大事と思い、そのような事業を仕掛けていきたいため、ご協力をお願いしたい。

**【委員】**

- ・学びの森に、幼いころに植樹体験で木を植える経験をした。こういった経験からも市への愛着は感じている。
- ・子ども時代に充実した経験をしていないと、同じ経験を子どもにさせてしまうくらいなら、子どもをつくることをためらってしまう人もいるかもしれない。子ども世代にどれだけ充実した経験をしてもらえるかが鍵と考えている。

**【会長】**

- ・誰でもどこでも学べる機会をつくっていくことが子どもたちには大事で、そのためには地域のコミュニティが大切と思う。
- ・次の世代が学び経験していくために外に出るのは良いと思っており、多様な見方や考え方を身につけて戻ってきてくれると良い。

**【委員】**

- ・市街化調整区域を市街化区域化していくのと、コンパクトシティを目指し沿線での宅地開発を進めるのでは方向性が違うような気がするが、どちらを目指すべきなのか。
- ・若い人は、住む場所を探す時にはスマートフォンの検索で情報収集をしている。そういった人に伝えるのであれば、キャッチーな施策を持ってくるほうがいいのかとも思うが、人口を引っ張って来るためにそういったものは検討しないのか、もしくは、キャッチーなものではなく、市に魅力を感じた人に来てほしいというスタンスなのか、お示しいただくと話が深まるのかと思う。

**【委員】**

- ・市街化調整区域の開発とコンパクトシティの関係は、実は同じ方向性である。例えば、大きな鉄道や道路、商業施設の近くでまだ有効活用ができるところを広げていき、一方で、昔の団地で人口が減少しているところは縮小していく。こうして、市内の適正配置を行っていくという考え方である。
- ・人口を増やすための方策としては、キャッチーなものや単発の魅力ではなく、都市公園の綺麗さや、ちょうどよい便利さ等を大切にして、人を多く獲得していきたいという方向性である。

**【委員】**

- ・調整区域を市街化区域に変えるのも、市が単独でできるわけではなく時間と労力がかかり、コンパクトシティ化についても用地買収等で時間と労力がかかる。すぐにできることと長期的に考えていくことを一緒に進めていく必要がある。
- ・岐阜工業高校の生徒は各務原市出身が多いが、就職の時に愛知県に行ってしまう。DX化、IT化により人手を省略できるような投資を進めるにはお金が必要であるため、それらの補助金の申請や金融機関への斡旋に取り組んでいく。
- ・各務原市の強みは緑で、現市長、歴代の市長も緑に関しては力を入れてきて、それに芽が出てきて成果を出している。各務原市は昨年国から表彰されており、そういった点を強みとしてアピールすればよい。さらに若い人には、ちょっと田舎でちょっと都会というようなキャッチフレーズも有効ではないかと思う。

**【会長】**

- ・那加でまちあるきというイベントを近日開催する。そこには、青木さんという、東京都豊島区が消滅可能性都市とされた際に、「南池袋公園」を整備して若い人や子どもが生まれるようなまちに変えていった方が参加する。そういった人の考え方も、総合計画や総合戦略に生かしていけるとよい。

**【委員】**

- ・鵜沼の方で、山に亀裂が入っており、センサーで崖崩れの監視を行っている箇所がある。夏の大雨の時に、センサーが反応して避難指示が出たにもかかわらず、30世帯以上あるうちの4世帯しか避難しなかった。その時は、落雷によるセンサーの誤作動であったためよかったものの、言葉では防災と言っているが本当に何か起きるとは思っていない人が多いと感じた。
- ・先ほど、意見として緑を増やすというものがあつたが、街路樹をどんどん増やすと、災害の際に道路を塞いで緊急車両が通れないこともあつたようである。
- ・防災対策として、ハード面だけでなく市民の危機管理意識を高める取組も必要だと感じている。

**【会長】**

- ・今年度の本会議は本日が最後となる。まちづくり、人口、子育てなど意見はあると思うので、総合計画や総合戦略で具体化できるように進めていってほしい。

	<p>い。</p> <p>3. その他 【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の懇話会の開催は今回が最後となる。来年度は各務原市の人口ビジョンの改定、また、総合戦略の全面的な改定を実施する予定になっている。来年度も本懇話会を開催して皆さまからご意見をお伺いしたいと考えており、日程はあらためてのご連絡となるが、引き続きご協力のほどお願いしたい。</li> </ul> <p>4. 閉会 【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以上をもって「令和5年度第2回しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会」を終了する。</li> </ul>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 第2期しあわせ実感かかみがはら総合戦略（改定案）に関するパブリックコメント（意見公募）の実施結果</li> <li>・資料2 各務原市の人口減少について</li> <li>・資料3 令和5年度第1回しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会議事概要</li> </ul>
備考	